

「SDGs達成のための課題及び解決策検討のためのワークショップの企画・運営に関する業務委託契約」

(公告日：2017年10月3日／公告番号：国契-17-080) について、入札説明書に関する質問と回答は以下のとおりです。

独立行政法人国際協力機構
調達部次長（契約担当）

| 通番 | 該当頁/章 | 項目 | 質問 | 回答 |
|----|-----------------------|-------------|---|---|
| 1 | P24 3. (3) ワークショップの実施 | (イ) 参加者 | ワークショップには、英語のみしか理解しない参加者は想定されているのか？想定した場合、通訳や資料の翻訳の経費はどうするのか？また、英語は、講師等の資格要件にはならないのか？ | 今回のワークショップ参加者について、基本的に英語のみ理解する方の参加は想定していませんので、日本語から英語への通訳及び資料翻訳の発生は想定していません。また、参加者及び講師の要件として、英語力を求めることは致しません。 但し、ワークショップ等において、業務の目的達成に資すると考えられる場合、英語話者のスピーカーをゲストとして呼び出すこと等をご提案いただくことは妨げません。なお受注者が翻訳や通訳を行う場合は、参加者確定後、JICA側にて手配を行います。従ってプロポーザルにおいて、翻訳や通訳に係る費用等の金額を積算し、提示して下さい。 |
| 2 | P29 4. 主な提出物・成果品等 | 中間報告書 実施報告書 | 報告書はどのような仕様で、何部提出したらよいか？CD-ROMでの提出や印刷製本は必要か？報告書作成のための経費はどうしたら良いのか？ | 報告書の部数及び仕様は以下のとおりと致します： (1) 中間報告書 ■簡易製本版（様式自由）…10部 (2) 実施報告書 ■製本版…15部 ■CD-ROM…40部 製本版及びCD-ROMの仕様については、業務仕様書Ⅱ. 2. (7)「実施報告書の印刷仕様」に記載のとおり、JICAホームページ上に掲載されている「コンサルタント等契約における報告書の印刷・電子媒体に関するガイドライン」に従うものと致します。 報告書作成に係る経費（製本・CD-ROM作成費）については、一般管理費として計上して下さい。 |
| 3 | P31 第3 I | 技術提案書の構成 | 15ページ内に収めることとの指示があるが、技術提案書のすべてを15ページ以内に収める必要があるのか？組織の経験・能力や業務従事者の経験・能力だけでも15ページを超えるため、枚数の上限は撤廃してほしい。 | 技術提案書のページ数については、「3. 業務実施方針等」の合計ページ数の上限を15ページとし、技術提案書全体でのページ数上限は設けないこととします。 |
| 4 | P31 第3 別添 評価表一覧 | 業務主任者の経験・能力 | 業務主任者の欄に、コンサルタント2名（過去類似業務経験5件以上、ファシリテーション能力を有する者）という記述があり、30点の配点がなされているが、業務主任者のみならず、コンサルタント2名も、この30点の配点に含まれているかいないか確認したい。 | 原則一般契約では、業務主任者を評価対象とし、他の業務従事者の評価はしません。従って、本評価点は、業務主任者1名のみを対象とします。他の業務従事者については、業務の実施方針の要員計画として評価します。従って、配点を添付の通り変更します。 |
| 5 | P35 第4 経費に係る留意事項 直接経費 | 直接経費 | 英語の参加者がいた場合の通訳や資料の翻訳費、報告書の印刷製本費等について、直接経費とするか、単価に含めるのか？ | 質問1および質問2の回答をご参照ください。 |

| 通番 | 該当頁/章 | 項目 | 質問 | 回答 |
|----|-------|----------------------------|--|---|
| 6 | p. 24 | 第2 II 2. (6) ④ | 「ワークショップでの落としどころは、『実現可能性』ではなく、良いアイデアの創出・抽出であり、ワークショップの結果を必ず実行するわけでない」という考え方と、課題の選定基準との整合性はどのように考えたらいいのか、ワークショップの結果を、今後こういった形で活用していく意向をお持ちか、うかがいたい。 | 入札説明書のp24(6)検討対象とする課題の選定クライテリア及び現時点で想定される論点(案)の「課題の選定クライテリア」として①から④を掲げており、「④議論の結果出てくる課題解決策が実現化される可能性があるもの。」としております。従って、想定している課題解決策は、現代の技術において非現実的なもの(例:空飛ぶ自動車)ではなく、実現出来る可能性があるレベルを期待しています。 また、ワークショップを通じて即実現可能となる課題解決策が導き出されれば最良の結果ではありますが、導き出される解決策/結果の熟度にはある程度ばらつきが生じることは想定しています。解決策/結果の活用については、内容に応じ、企業側で引き取り事業化する、JICA民間連携事業に企業が応募し案件化する、JICAが引き取り案件化する等、様々なパターンが生じると考えています。 さらに、このワークショップを通じて得たイノベーションを創出するプロセスをJICA職員が自らの業務に活かす事も期待しており、「次年度以降にJICAがイノベティブな課題解決策の創出を再現可能な取り組みとして行うにあたっての留意事項」を実施報告書に含めることとしています。 これらの点を勘案願います。 |
| 7 | p. 25 | 第2 II 3. (2) ① (ア) | 受注希望者が技術提案書で記述する3つの論点と、最終的に発注者が選択する3つの論点との関係性につき、どのようにお考えか、うかがいたい。 | 受注希望者が技術提案書において任意で選ぶ3つの論点に関しては、論点の選び方を提案頂くというのではなく、仮に選んで頂いた論点について、どのようなアプローチでワークショップをデザインしていくかのご提案を頂くことが主眼です。このため、最終的に発注者が3つの論点を選択する際の判断には、直接関係するものではありません。 なお、JICAが3つの論点を選択するにあたっては、JICA内および外部参加者のニーズおよびワークショップにおいて議論が進展しやすいテーマか否かを考慮することとなります。 |
| 8 | p. 29 | 第2 II 4. | 中間報告書および実施報告書の部数と仕様をご教示いただきたい。 | 質問2の回答をご参照ください。 |
| 9 | p. 34 | 第3 II 別 添: 評価項目一 覧 | 業務従事者は2名ということか。ワークショップは6グループで各5人程度を想定しておられるとのことだが、協議を活性化させる目的で、2名以上のファシリテーターを投入することは可能か。 | 評価項目一覧から「コンサルタント2名」という表記は削除致しましたので、特に制限はありません、他方、要員計画が業務内容を円滑にこなすにあたり妥当であるか否かは評価対象となります。 |
| 10 | P. 6 | (2) 共同企業 体、再委託につ いて | 共同企業体の結成を認めるとありますが、業務主任者(総括)は共同企業体の代表者の者である必要があるか教えてください。 | 共同企業体の代表者(社)からの選定が望ましいですが、代表者(社)でなくても構いません。 |
| 11 | P. 31 | I. 技術提案書 の構成 | 「・技術提案書の用紙はA4判(折込可)とし、15ページ内に収めること。」と記載がありますが、下表の0.表紙から4.業務実施体制と業務従事者の経験・能力まで全て含めて15ページ以内という理解で宜しいでしょうか。 | 質問3の回答をご参照下さい。 |
| 12 | P. 35 | 1. 経費の費目構 成 (1) 業務報酬 | 想定する業務量の目安(MM)が記載されていますが、評価対象外のメンバーもこちらの総MMの中に含めて計画しても宜しいでしょうか。 | 右理解で相違ありません。想定する業務量の目安(MM)は、すべてのメンバーの配置日数を合計して提示しています。 |

【JICAからのお知らせ】

以下、入札説明書を訂正します。

| 通番 | 該当頁/章 | 項目 | 訂正前 | 訂正後 |
|----|-------------------------------|--------------|---------|----------|
| 1 | P37 下見積も り・入札金額内 訳書フォーム | 直接経費 備品 費 | 10,000円 | 100,000円 |

| 通番 | 該当頁/章 | 項目 | 質問 | 回答 |
|----|---------------------------|----------------|--|--|
| 2 | P31 第3 技術 提案書の作成要 領 | I 技術提案書の 構成 | <ul style="list-style-type: none"> 0. 表紙 1. 目次 2. 社の経験・能力 3. 業務実施方針及び法 各研修のスケジュールや重点を記載 4. 業務実施体制と従事者の経験・能力 | <ul style="list-style-type: none"> 0. 表題 1. 目次 2. 組織の経験・能力 3. 業務実施方針等（業務実施の基本方針・方法、業務実施体制、業務実施ス ケジュール、JICAに対する報告・連絡・相談の体制を記載） 4. 業務従事者の経験・能力等 |

評価項目一覧

| 評価項目 | 評価基準 | 配点 | |
|-------------|--|----|-----|
| 組織の経験・能力 | (1) 取り組むべき課題の特定及びイノベーティブな解決策の創出に関するコンサルティング・ワークショップ経験が十分にあるか（5年以上） | 15 | 50 |
| | (2) 類似業務を、官公庁・地方自治体、或いは民間企業、大学等の教育機関に実施した経験はあるか | 15 | |
| | (3) 類似業務を国際機関に実施した経験はあるか | 5 | |
| | (4) JICA 事業に関する何らかの業務経験はあるか | 5 | |
| | (5) 当該業務を円滑に実施する体制（講師、サポートスタッフ等）を備えているか | 5 | |
| | (6) SDGsに関するテーマでのコンサルティング・ワークショップ経験はあるか | 5 | |
| 業務の実施方針 | (1) 仕様書を十分に理解し、記載の業務内容について効果的な提案を行っているか | 35 | 95 |
| | (2) 技術提案書に記載の要件を全て満たした上で具体的な提案を行っているか | 35 | |
| | (3) 業務方法、作業計画は業務実施の基本方針と整合的か | 10 | |
| | (4) 要員計画は、業務内容を円滑にこなすに当たり妥当であるか | 10 | |
| | (5) 本業務に関してその他有益な提案はあるか | 5 | |
| 業務従事者の経験・能力 | (1) 業務主任者は、ワークショップにおけるファシリテーション能力・経験を十分に有しているか | 25 | 55 |
| | (2) 潜在的課題の特定及び分析、持続可能かつイノベーティブな課題解決策の創出に関する思考法の総合的な経験・知識を有しているか | 15 | |
| | (3) SDGsに関するテーマでの類似業務経験はあるか | 5 | |
| | (4) 業務全般について、業務従事者の業務分担は効率的かつ妥当か | 5 | |
| | (5) JICA 事業に関する何らかの業務経験はあるか | 5 | |
| 合計 | | | 200 |